

集会案内

毎日曜日： 祈 禱 会 1:15pm - 1:45pm
 礼 拝 2:00pm - 3:20pm
 ブレイク 3:30pm - 3:50pm
 聖書研究 4:00pm - 4:50pm

毎月1回： 家庭集会 ラグナ・ウッズ又はアーバイン
 10:30am - 昼食

教会住所： c/o Grace Hills Church
 24521 Moulton Pkwy
 Aliso Viejo, CA 92637

- ★ 私達の礼拝は第1バプテスト教会グレース・ヒルズ教会堂内のチャペルで行なっています。
- ★ 子供たちのためのサンデー・スクールもあります。また、遊具等の設備も豊かに整っております。
- ★ 13年前に始まった日本語教会です。どなた様もお気軽にお出かけ下さい。

地 図



ホームページ： www.irvinenihongokyokai.org

Irvine Nihongo Kyokai

連絡先： 榊原宣行 牧師 電話：(714)827-6244
 Eメール：nobu@occc.org

杉村 宰 牧師 電話：(714)527-1456
 Eメール：sugimura1950@gmail.com

◎石叫■

「馬籠・妻籠訪問」

今回の母の百歳の祝いの前に、私たちは旧中山道の馬籠（まごめ）や妻籠（つまご）に足を運んだ。以前から名の知れた江戸末期の風情の残る宿場町であったので、その地に足を踏み入れて実際に自分の足で歩いてみたかったのだ。名古屋から中央本線で木曾川を上ってゆくコースだ。車窓から見る木曾川沿線は、中央アルプスと北アルプスの間を縫うように走っている。初めてということもあり、見え隠れする山々とその白銀の輝きに魅せられてしまった。そのようにして着いた馬籠と妻籠という全国で初めて古い町並みを保存したという宿場町は、日本人だけではなく、外国からの観光客であふれていた。

馬籠は文豪、島崎藤村の出生地である。彼の詩集、特に「初恋」「千曲川旅情の歌」などには心をときめかせたものである。そこから八百メートルの敷石の敷き詰められた坂道の両側に立つ民家や土産店が往時の趣を残している。そこで振り返ると恵那山が目前に迫ってくるではないか。何ともいえぬ絶景である。そこからバスで妻籠に向かう。そこも同じように江戸時代の建造物が当時のままに残る。町全体で町並みの歴史保全という一つの目的に生きることに魅力を感じる。戸外で雑草をとっていた地元のご婦人に、「このような昔の建物の中に住んでいるって素晴らしいですね」と話しかけると、意外な答えが返ってきた。「ここに居ると不便だね。近くには病院もないし、スーパーマーケットもないし、そりやあ大変ですよ」ときた。さらに地元の人には、信条があり「売らない、貸さない、壊さない」という住民憲章によって、自分の好きなように改築も売却もできない。外部の者には理解できない不便さがあるであらう。

これらの宿場町には、確かに多くの不便があるだろうが、町を守ることが日本文化の継承であり、それが彼らの最大の誇りでもあらう。一方、私たちクリスチャンには信仰継承という務めがある。それは主イエスのなされた十字架のみ業を語り続けることである。「あなたがたは、選ばれた種族、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべき光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである」（1ペテロ二・9）とある。この務めは容易くはないが、これこそが私たちの特権であり、何よりももの誇りである。

Pastor Keiko Sugimura

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。杉村宰牧師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕土兄と信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集會を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令（マタイ28：18-20）に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。